

電車の踏切を渡ってフィニッシュ！ スコアオリエンテーリングだからできたコースレイアウト。

スタートダッシュで踏切

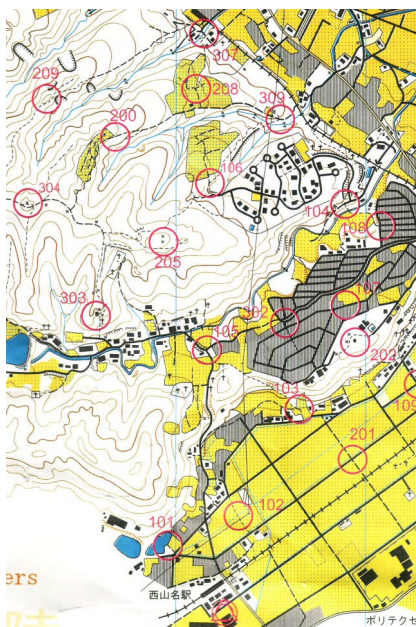
10時30分。スコア0の参加者が一斉に会場を飛び出す。と同時に踏切を渡ってコントロールがバラ蒔かれている丘陵地へと散ってゆく。

私の長いオリエンテーリング歴の中で踏切を渡るコースってあったらどうか？ 思い出せない。

上信電鉄は列車間隔40分間隔程度のローカル線。列車の走る姿がのどかだ。

会場となった高崎産業技術専門学校は上信電鉄「西山名駅」のすぐ南側。競技のメインとなる丘陵地は線路を渡って北側。競技中、会場と丘陵地の往復は必ず踏切を通らなくてはならない。

スタート時刻が全員一斉で、制限時刻も全員一斉であるスコア0でしか、このようなコースレイアウトはできなかったらう。



会場付近の地図。会場は南端。

スコア0の魅力

今回の大会で使用された地図はパーマネントコース(PC)用に調査されたもの。通行可能度は入っていない。小道や小径は調査されているが、森の中



は大まかな地形が描かれているだけだ。だがそれで充分。設定されたコントロール位置は遊歩道の分岐、石碑、神社、小さなコブなど明瞭なものばかり。森の中を直進するのではなく、整備された遊歩道や小径をガンガンと突き進むスピード感溢れるレースになった。これはこれで高速ナビゲーションの楽しさがある。競技が公正に行われている安心感もある。

ポイント0なら少し物足りなさを感じるかもしれない状況だが、スコア0の場合は飽きることはない。迫り来る制限時間、その中でコントロールを回る順番とルートの戦略を考えると、もう頭がいっぱいだ。

満点ゲットだけ

順調にレースをこなしてゆくうちに、もしかして満点に手が届くかもしれないと思い始めた。こうなると坂を登る体にもムチが入る。この一群のコントロールを回ると満点だぞ！と思った時に福田氏(川越 OLC)が風のように私を抜いていった。

福田氏と私は回り方が全然違ったにも関わらず、ほぼ同時に満点を獲得。走力が上回る福田氏が私より早くフィニッシュに飛び込んだ。

ああここで電車が来て踏切が下りて福田氏を足止めしてくれていたらなあ。

同じ土俵で競う楽しみ

今回の大会は、クラスが違ってもスコア0のコース地図は全て同じ。このためすべてのクラスの人と成績比較ができる。

「ホラ、すごいねえ、満点だってよ。

がんばればできるんだ。」

私を前にして、家族組のお父さんが子供にそう話しかける。この瞬間、子供は尊敬のまなざしで私を見てくれている。

会場のあちこちで、地図を囲んで違うクラスの人が反省会を行っている。同じ土俵で競った楽しみがそこにあった。



競技後のレース検証に夢中

山名丘陵 万葉いしぶみの里大会優勝者

男子A	福田雅秀	600点
男子B	小澤誠太郎	496点
女子	須藤ともえ	400点
男子組	福原 町田	420点
壮年組	森山松年	524点
混合組	藤生明美	400点
家族組	林直樹	332点
年少組	坂本 笠原	250点

(木村佳司)